



開卷驚奇俠客傳

第二集



13  
3157  
6



曲亭主人編演

開卷驚奇

游俠傳

刊行去歲

與今年

請看孝義忠貞事

錦上添花維二篇

柳川重信繪畫

羣玉堂精刊



常五

金耀

金耀

俠客傳第二集引

交回

羣玉堂

凡作撰史者其才不一而足矣夫才之為物猶  
木也淺深也淺則見其深者不可測故其常  
為不先也者屈而為知也者伸既屈於一時  
之無知己而終者伸於數百年以後之世乃  
才之難易與時之用捨其舉不浩原乎哉蓋  
古得史之作唐山家為工倣然不得其法也  
其高其怪怪復幻其異其未足以物女子之筆  
以勸懲一鳴之聲其情態則文與情交玉焉文與情

史各傳第二集卷一

羣玉堂印

3157  
6

交至焉。則注意。要其自然。事物現幻。若上及。清  
而入。注境。耳。如。聽。其言。目。如。觀。其人。於是乎。因  
夫。山。妻。漁。父。牧。童。無。不。嗚。咽。啼。噓。而。不。感。歎。是  
誠。才。子。之。書。也。非。帝。子。斯。巧。拙。耳。者。至。書。亦。且  
利。鈍。苟。能。讀。稗。史。者。發。人。所。昧。及。於。解。人。所。不  
能。解。竟。有。看。者。先。已。了。了。其。具。眼。如。車  
輪。以。看。其。批。者。亦。其。其。移。以。看。者。隨。得。南。鍼。到  
彼。岸。庶。矣。其。非。異。世。之。知。已。之。資。耶。嗚。呼。生。已  
當年。尚。難。以。況。于。異。世。誰。亦。思。之。皇。朝。素。有

稗史。是。謂。策。子。物。語。竹。採。字。通。保。粉。語。源。語。者。  
所。謂。古。之。稗。史。也。後。人。玩。之。不。精。但。注。解。其。詞。  
不。作。批。評。生。已。之。難。得。不。知。也。唐。山。也。者。其。稗  
史。每。傳。奇。于。其。大。筆。必。有。批。評。惟。則。有。批。評。所  
發。的。作者。之。陰。德。而。論。辯。其。謬。者。幾。稀。矣。予  
觀。之。美。羅。貫。中。三。國。演。義。高。東。夢。張。豔。一。等。是  
聲。山。元。氏。馬。標。新。傾。異。聲。送。家。解。語。評。注。十。餘。卷  
其。山。又。於。此。記。復。評。中。錄。雷。恨。傳。奇。數。卷。其  
同。以。為。補。天。石。因。其。一。曰。羅。江。屈。子。聖。賢。也。

史記傳卷二

二曰博浪沙始皇中擊其曰太子丹湯奏靈  
 恥三曰丞相亮滅魏班師其五曰鄧伯通  
 子園圖其六曰荀奉倩夫妻諧老其七曰李陵  
 重歸在國其八曰昭天復入漢關其九曰南雲  
 靈祥殺賀蘭其十曰宋德昭劫問趙普諸其氏  
 類宜補古來人事之缺陷云云所編次使實  
 傳一書正與彼意暗合前集自序云云若新田  
 楠木二公至忠至義以順討逆理必滿殊滅足  
 利氏奏恢復之功哀哉當人勝天之時策策不

行百戰為畫餅古來人事大可恨者莫過其  
 此每嘆於君子之業本之于春秋心誅之文  
 法而作雷恨之得史者未之有也是予所以  
 此舉自今而後者是也者不為則知古  
 來人事之缺陷錯其恨之為一大快編  
 天保壬辰仲冬之吉甲子日題于神田廟東若  
 作堂之南軒山茶花閣雲

蓑笠漁隱



一著齋盛義書



開卷驚奇俠客傳第二集總目錄

壹卷

第十回

深山孤俠訴意衷  
山莊眾僕諱舊功

第十二回

安同首喪温泉舍  
度吉淚濺節死場

貳卷

第十三回

感義烈俠民斂身首  
說靈夢聞人建墓表

第十四回

足柄踰長總伴奸夫  
吉野山小六遇女仙

卷

第十五回

齊統遺歌助則知隱逸  
臙帶志歲老樹話以牲

參

第十六回

不毛山麓路義士憐童女  
野井地藏堂俠客避驟雨

四卷

第十七回

滿泰駐駕見壯士  
助則走馬捕奸黨

第十八回

裡應外合濫法  
理論方正繫枉

五卷

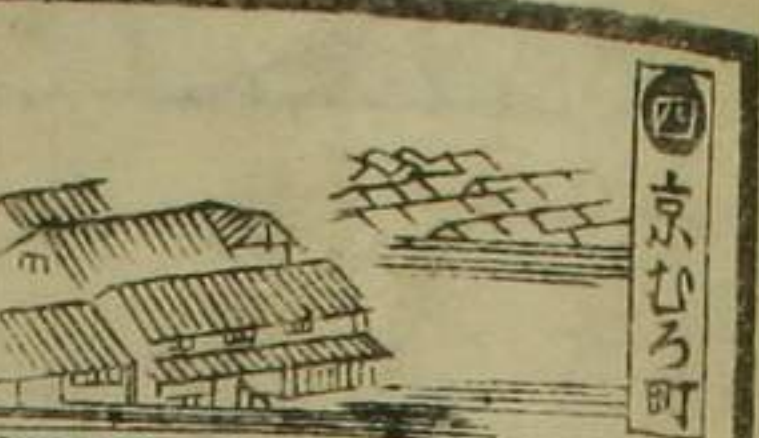
第十九回

託鴻便義兒齋書信  
避豺狼母女附海船

第二十回

姑摩姬夜夜禱神祇  
九六媛月下譚劍俠

總目錄終 本集起應永十八年夏四月盡十九年春正月下旬但第三十回又起文中九年至應永十一年秋八月十五夜歲月有先后焉





離德入墓南  
馬跌老鼠何  
識冠中生

質北畠三位  
玄同老人

伊勢国司  
北畠滿泰

引板屋方

像寶第七



と柳  
とけぬ  
うらみ  
春さむ草  
朝乃  
無氷

稻城文作  
守延

質稻城守延  
半河道人

山勝  
杉内

芥田  
与記

像寶第八

新酒霧



窮厄兩番才足免  
小時了了大時佳  
新酒霧  
愚山人

木造木工介  
表勝

像贊  
第九

あふれはまのつとて人といへ  
よふかひのあつたる気暮盤



衿笠  
小夜郎

長総

像贊  
第十



いかに世を志のよともかかれ  
 仇と共形あ先此下平  
 登 賢楠正元 教并人

楠河内守  
 正元

英虞将曹助

像  
 賢  
 第  
 二



勅風拔木乳猿  
 寒雨喪朋雁獨  
 凶吉去來無約束  
 分憂游俠似天資  
 賢庶吉并老樹  
 著作堂

禪取  
 庶吉

老樹

像  
 賢  
 第

大正十一年一月

大正十一年一月



俠客傳第二集列傳追加姓名目錄

將相北白田滿泰みくら楠正勝まきむね楠正元まきもと上杉氏憲うさぎのり

上杉憲基うさぎもと三浦介時高みうらときたか武士稻城守延いなぎのり木造親政きぞうちか

木造泰勝きぞうたか英貞將曹えいせい明星二郎めいせい十布野左衛門とふのざえもん宮尉手多太藏みやじうた足野井備平あしのいへい底倉喜我そこくらきわ袖本再九郎そくもとさいく

堂樞麻太郎どうすま名湯面九郎なとうめんく人鷹鳥鬼右衛門ひとたかぶ龍卷耳朶りゅうまみ楯取度吉たてとりよ隅屋維盈ぐみやい僕隸山勝べくれい谷田與記右衛門やた

奴隸既介ぬれい孺豎庭鳥三女介にうじやう衿笠小夜二郎きんがさ農維底倉仁兵のうえ底倉義右衛門そこくら底倉礼作そこくら五柳村長いづら

底倉信三そこくら底倉里長そこくら石畳屋甲いしがたま五柳村長いづら悪棍拐兒あくこん婦人楠姑摩姫ふじん老樹らうじゆ引板屋ひいた長総なが縫殿ぬい

緇流遊行上人しゆりう實證寺長老じやうじやう寶珠寺智正ほうじゆ女行者音問にょぎやう神仙葛城九六媛かみせん通計早七つうけい第一集姓名目錄所載だいいち千九百六十七名せん

開卷驚奇俠客傳第二集卷之一

東都 曲亭主人編次

第十一回 深林孤俠意哀を訴ふ

再説館小六助則父義隆の讐敵藤白隼人安同と今宵必敵を捕て義父

著演の枉難さ小只這一拳の禳念と豫て謀り孝心義胆の智慧も武男も

健雄の夜敷の打拵精悍き翁姑峯投て赴たる時小應永十八年辛卯夏四

月二十四日の黄昏時不知安内なる山里踰て羊腸る樹の下其陰の迷は武士の

道直に背小菜の小篠原苔滑小薄鷹山山路と登りゆく程に忽地後方より人々

ぞぞと上嶮野上の小官人等廿多と喚びたり是れ小六を敬慕する者ぞ

けしきも厥方と信とえられは是則人々ぞは日藤澤より宿所の庭ゆく

氣色も厥方と信とえられは是則人々ぞは日藤澤より宿所の庭ゆく

氣色も厥方と信とえられは是則人々ぞは日藤澤より宿所の庭ゆく

氣色も厥方と信とえられは是則人々ぞは日藤澤より宿所の庭ゆく

氣色も厥方と信とえられは是則人々ぞは日藤澤より宿所の庭ゆく

氣色も厥方と信とえられは是則人々ぞは日藤澤より宿所の庭ゆく

氣色も厥方と信とえられは是則人々ぞは日藤澤より宿所の庭ゆく

氣色も厥方と信とえられは是則人々ぞは日藤澤より宿所の庭ゆく

氣色も厥方と信とえられは是則人々ぞは日藤澤より宿所の庭ゆく

氣色も厥方と信とえられは是則人々ぞは日藤澤より宿所の庭ゆく



那密談と竊聞せし折回善る目四郎目四郎這日の打扮尚巳時許る所  
 淫流る小妻木綿の夾衣と裾短小結と柿染ゆる三尺帯と氣海頭（髪）  
 たる帯の萌葱の太織絹小紺の裏脚草鞋甲脚祥も對の漆木綿黄銅（指輪）  
 圓瑠璃刀と瑠璃降り佩るる左の引提（提げ）菅笠と遠く撥遣捨てる  
 含笑り多と接つ腰と屈めて快步小六が身邊近づる小六も心と知  
 るのうらむひけるるれ故意の多ぬ面色しく今喚被けし和郎る致  
 柳和主の何処の人と問へ目四郎声と密めて否氣つる此の裏あは小可の  
 這頭中客店の目四郎と喚做を頼の博徒りふい比故りて大老  
 爺不教訓せられ鬼胆と入目多て死方人ありりし密談と漏れなるい  
 ん身の先途立立。稟る洪恩德澤も答んぬと歩ひの空とわられた  
 ん身の多命世も人の思ひ死や恙もあは在さんとなさるりし事情と許小

告稟ささるる討し思されん樹蔭へ立寄ぬるをとのふ小六一談及む  
 然りとて軀先立立小條踏死細道へ反あまの退り株尻をうち搦れ  
 目四郎も亦跟て来うち朝ひ跪せ四下とええり喃小官人櫻屋小可が大老  
 爺の慈悲德澤も悪と洗れを明の酔の醒し善小與とて死とも辨せ  
 る此身の伴立立まらんと拵言ひし徳々々箇様々でひ死とて初安同小  
 憑れて野上史著演を陥せんと計較るその癖の趣より花水橋を著演の  
 銅笄と竊みその折も又詰早も世の有が死著演の義徳恩先非を  
 悔て柱小觸と死すせし又著演は禁められ小六が伴は立たれて圓金三枚を  
 恵まける那日の密談もその身の素生九介年已前舊里えける假名川  
 むく英直夫婦の密談を心とも奪く竊聞て小六と脇屋右中將の死すり  
 死と知りしと告告知ると半响許耳は果て又いふる徳を情申さへい

大老爺おきなの只顧ただみふらん列りと伊勢いせの國司くにすけ許落ゆる遣やりんと思食おもうる當坐あたふの  
 決断けつだん神機かみ妙算めうざんせし憑たもく示しさるのこゝろ義ぎとて勇いさむ心こゝろあつたその折せ汝なんぢ伴ともよ  
 立たて小六せうろくが旅宿りやど仕つかへよか去向さきむかひのこゝろいふれども時日ときひのこゝろまじとゆゆをま竊ひそか招寄まねする  
 まま汝なんぢの平塚ひらつかより宿りやど退ひりて便たりて等らねと叮嚀ていねいのこゝろ宣のたまはせし涙なみだあがまじ退ひ  
 下くだりて便たりて等らねと叮嚀ていねいのこゝろ宣のたまはせし涙なみだあがまじ退ひ  
 一ひと名な今いま俗ぞくの早瀬はやせの投なげをせりひ縛むすの顛うづ末すえ恁おごろと風声かぜこゑを毎まく隠かくれぬわづむ亡なし  
 骸かれの辛くるしみあつた涉獵せつりやくのこゝろいふれども時日ときひのこゝろまじとゆゆをま竊ひそか招寄まねする  
 可よも柩いぶを送おくりておろせたる胸むねの憂うれ也なり朦も朧ろ也なり人ひと知しる歎なげ死しの露つゆの竹離たけり色いろゆを  
 寓方やくほうのこゝろいふれども時日ときひのこゝろまじとゆゆをま竊ひそか招寄まねする  
 士しでも病やまひ病やまひ不ふ捷せつは死しの露つゆの竹離たけり色いろゆを  
 死しと歎なげけむと惜あはれむと返かへらんや小六せうろくのこゝろいふれども時日ときひのこゝろまじとゆゆをま竊ひそか招寄まねする

俺進退おれしんたいさへ谷やりぬ暮くれ暮くれ藤ふじ白しろ馬うま心こゝろを果はまを回まわりて山やまより東ひがしの  
 処ところあるべし那人あのひと必かな憎にくむと思おもふ屠殺とろころのこゝろいふれども時日ときひのこゝろまじとゆゆをま竊ひそか招寄まねする  
 と親おやまうる一ひと機きと木き且かつ又また奸計けんけいを旋まわりて大人おとなを殺ころさんとせし俺おれ身みの  
 惜あはれむと足あしをねども大人おとなの危あや殃わざあはせて恩おん義ぎと稟うけする甲斐かひある上かみ所ところ詮せん身みの  
 底そこ倉くらる那浴あのゆ館たての潜ひそか入いりて以もつの隨ま藤ふじ白しろと刺殺さしころして俺おれ死しる徳とく小こ助すけ恩おんふ  
 答こたへ是こゝろ忠ちゆう節せつの捷徑せつていを後のち々々も野上ののの大人おとなの俺おれ身みと義ぎ士しと思おもはれん虎こを  
 死しして皮かわを留とどめ人の死しと名なと送おくむ呼よぶと吐裏はなの念ねん決けつめ一ひと俛ひ見みの打うち  
 る日ひ大人おとなの賜たまひり那三あのさん面めんの金かねの形かたちの如ごとく准まも備もへし這こ鹿か路ろの立たち  
 暮くれ果はる日ひと等ら程ほどの以もつの隨ま藤ふじ白しろと刺殺さしころして俺おれ死しる徳とく小こ助すけ恩おんふ  
 跨またへる山路やまぢの赴おもむ樹こゝろのこゝろいふれども時日ときひのこゝろまじとゆゆをま竊ひそか招寄まねする  
 藐姑めいこ峯のねの湖水こゝろの頭かみの賽さいの河原かわらのこゝろいふれども時日ときひのこゝろまじとゆゆをま竊ひそか招寄まねする

為る。欣と怪と思へと去向を。下くえん。いひまが。竊は迹と跟て。来り背影さへ  
 半面。又左に在る。右に在る。視相。うら腰より。下の。朦朧。る。と。峻。した山路。との。と。  
 せで。急せぬ。歩の。運び。も。陽氣。自然と。見れて。冤魂。変化。は。似たり。の。原。来。入。  
 水の。陽。致。せ。竊。は。父。脇。屋。殿。の。冤。家。藤。白。安。同。と。敷。果。さ。ん。と。今。宵。這。  
 山路。と。投。て。潜。寄。め。ふ。こ。と。と。猜。せ。か。海。鏡。の。骨。小。遇。心。地。て。漫。お。喚。子。  
 な。り。ぬ。人。を。親。ま。欺。死。課。る。不。存。命。て。い。ま。も。智。慧。才。学。の。逞。し。や。然。  
 と。も。另。不。故。ある。の。欣。願。ふ。の。詳。し。う。ち。明。て。示。さ。せ。ぬ。と。繰。返。さ。舌。も。輪。る。小。車。の。  
 曳。甲。斐。え。え。一。俠。者。の。赤。心。あり。ぬ。優。た。る。健。氣。さ。小。六。と。連。り。ぬ。感。嘆。し。く。連。  
 微妙。死。和。主。の。義。俠。只。一。旦。の。恩。感。と。死。し。て。大。人。小。六。と。せ。れ。誠。の。又。  
 く。ゆ。ご。一。俺。い。ぬ。比。宿。所。の。庭。中。大。人。と。和。主。の。密。談。を。心。と。も。ろ。く。竊。せ。て。その。崖。  
 略。と。知。り。これ。も。は。漏。せ。し。今。具。報。知。され。い。意。外。の。歎。び。現。向。上。る。任。俠。へ。

然。那。折。脚。観。た。和。主。の。面。影。忘。れ。せ。し。と。和。主。亦。い。く。と。俺。と。正。可。不。認。り。  
 た。は。あ。の。不。審。し。れ。と。す。と。い。へ。目。四。郎。ち。微。笑。て。か。ん。疑。ひ。の。介。る。と。さ。く。小。可。ハ  
 藤。白。の。回。謀。者。小。六。一。比。藤。澤。る。お。宿。所。の。外。に。在。る。内。に。張。ひ。て。萬。変。心。を。屬。  
 たり。けれ。大。人。の。あ。ら。ん。と。死。身。の。面。影。声。音。さ。の。好。知。り。あ。れ。と。の。小。六。を。黙。頭。と。さ。く。が  
 隠。ま。し。由。も。る。一。皇。と。和。主。の。猜。せ。如。く。親。の。仇。た。る。安。同。を。敷。平。ん。と。決。め。し。只  
 是。実。父。の。與。の。と。る。と。養。育。の。恩。年。と。累。ね。し。義。父。の。與。も。亦。仇。も。唯。速。に  
 禍。の。根。と。断。て。後。と。安。く。せ。た。と。と。あ。の。の。う。う。安。同。の。鎌。倉。を。領。地。の。監。臣。あ。く。  
 従。類。も。亦。よ。ん。と。白。地。お。敷。を。捕。ら。後。難。養。父。の。う。ふ。係。り。て。臍。と。破。れ。ぬ。及。び  
 が。け。ん。最。も。難。美。の。復。讎。言。れ。せ。ぬ。も。人。や。俺。が。所。為。と。知。さ。で。敷。平。ん。と。尋。思。と  
 あり。欺。く。ま。し。親。と。ま。す。詐。謀。り。し。是。虚。証。の。似。て。罪。深。か。死。所。行。き。ま。す。の  
 詭。の。親。の。與。と。ま。誠。の。外。あ。ら。ん。是。則。權。謀。之。權。の。秤。の。錘。の。如。く。重。き。を。掛。れ。と。

必重く軽きを扱れば必軽し。人這權を用ひされば柱の膠きどろ。機も臨む要ふ。必  
 必。この宜きをゆる工かざる。既小徳も掃りかへ。俺が存命であるより。知事との  
 あつと。と。天知る地知る。和郎小定知れらる。便さる。更便宜さる。便  
 依倚伏の糾ふ纏の如し。世の塞公羽の馬多かる。俺身はちりま。知事との  
 俺素生。と。和主小竊聞せられ。年歴て今茲を故小殃危不慮不與。と  
 る。と。ち。禳んと。俺身先横死。示し。親疎の耳目。と。隈み。欺たりけを。  
 亦是和主不知れけり。奇なり。過世の業報。鬼神不測のあり。夜敷。と。  
 伴小立人の要る。和主の這里より京師のか。ふ。赴け。世と渡れ。俺身の武  
 運折は稱ふ。今宵実父の祥月忌日。親の怨。雪ゆる。罪。命。惜。と。  
 然。と。も。は。幸。ひ。小恙。も。か。へ。俺。も。亦。京。路。投。て。立。退。く。べ。い。あ。く。入。り。那。首  
 也。環。會。自。の。ま。る。ま。り。む。や。の。口。げ。う。へ。の。好。意。あ。の。小。六。が。死。な。で。有。け。り。と。親。弟。兄

中世の人中も報る。と。過され。の。義士と。今。あ。く。憑。ひ。の。只。これ。の。  
 や。登。這。義。と。あ。る。ゆ。て。と。口。説。く。目。四。郎。は。あ。ま。ま。の。亦。本。立。意。を。の。り。と。い。ふ。  
 去て美引く。死。好。ま。て。も。え。か。大。老。爺。小。折。言。ひ。折。今。宵。身。の。夜。敷。の。伴。小。  
 立。ん。と。の。り。と。い。る。け。れ。と。ん。身。と。浴。遣。る。折。小。俱。と。旅。宿。は。任。下。と。准。備。金。三。  
 賜。下。小。その。の。空。小。り。か。恩。義。と。復。志。術。さ。ふ。大。人。の。仇。を。那。人。を。敷。ま。と。  
 以。決。め。つ。今。獨。も。く。這。山。路。ゆ。料。ら。ん。身。不。遇。さ。る。今。宵。の。伴。小。立。ま。も。あ。ら。ん。  
 大人小期。たる。折。言。言。も。今。又。あ。ん。身。小。稟。せ。と。も。皆。搗。鬼。さ。る。ん。と。且。小。可。を。  
 那。首。ま。で。俱。と。あ。れ。ぬ。必。三。椿。の。不。便。あり。その。美。を。あ。の。屋。と。の。小。六。を。眉。を。  
 類。擧。め。て。不。便。と。の。甚。麼。さ。る。故。と。向。へ。目。四。郎。ゆ。れ。と。下。小。可。の。那。浴。館。無。内。を。  
 よ。く。知。ら。れ。と。御。導。せ。し。れ。ば。是。不。便。の。一。つ。又。案。内。者。と。る。ま。も。あ。ま。武。運。は。相。  
 ふ。く。以。の。隨。小。宛。家。と。敷。を。捕。り。あ。ふ。も。那。人。の。後。類。さ。る。其。由。小。六。を。あ。ん。

伏魔傳第二轉卷一

身認るのあつん是不便の二ツ又那首の非常の與不備措る三ツ其則もまうの  
 一人先不潜び入る弓の強断るのそく敵射らるるあつん足その不便の二  
 多りけ。今這三椿の不便あり然でも伴あ允されま。みづうらひひか。と詞  
 せきく怨まれ小六を辱領たいてい。趣寔は所以あり。匹夫も亦志と奪ひか  
 りるは。俺行てり。怨てり。まう。和主の望不儘と。案内の與不俱もせん  
 るれども和主が那浴館へ潜入て捉へられま。とぞえ。より。名日屬と。歷る。今此容  
 子の什麼る。死とのを目四郎少あ。其頭も脱落い。昨日宵小可潜も。那  
 首の容と。現ひ。那人の五十日の湯治の暇と。賜り。鎌倉と。立出。三月十  
 一二日の。み。と。焦れ。ま。の。日。より。四四五日。より。ふ。たり。是。より。藤白主。明  
 日先妻子と。氣賀へ。か。して。その。身。後。日。飲。大。後。日。俱。と。氣賀。ま。で。退。て。却。鎌  
 倉へ。赴。んと。い。れ。り。也。听。ゆ。ら。る。れ。も。便。り。ま。ら。れ。ば。敷。も。果。さ。を。け。ま。及。り。

然ハ三月の中。儼。の。遊。真。の。與。不。備。措。ら。る。大。磯。紅。粉。坂。の。歌。妓。們。の。翌。日。身。の  
 暇と。賜。り。ま。う。還。り。風。起。り。癖。る。れ。陰。の。秋。べ。れ。も。か。名。残。惜。し。と。い。ひ。ま。う  
 了。然。と。思。へ。今。宵。の。好。潮。合。せ。る。脚。寅。縁。ま。かり。ぬ。死。女。子。の。總。て。那。首。の。あ。つ。ん  
 奥。方。隸。の。甲。乙。も。皆。轆。子。に。後。て。氣。賀。の。郎。へ。退。り。ま。う。残。る。若。黨。雜。色。奴。隸  
 二十名。の。過。ぎ。る。べ。と。報。る。小。六。を。欺。し。の。も。と。憶。志。も。額。不。加。え。を。又。ゆ。え  
 造化。の。厄。難。時。の。程。と。思。ひ。小。密。談。二。日。の。昔。春。れ。と。覚。え。夜。の。初。更。の。あ。つ。ん  
 真。夜。半。ま。で。の。烏。夜。る。れ。の。潜。ま。便。り。ま。ら。れ。卒。や。那。首。へ。急。ん。ま。う。立。目。四。郎  
 推。禁。め。て。喘。ら。せ。ぬ。尚。ま。う。最。初。小。可。が。那。浴。館。へ。潜。入。し。折。り。も。只。脚  
 頭。と。相。つ。る。の。ま。う。間。毎。小。心。と。履。屬。さ。り。け。れ。昨。宵。と。八。間。を。漏。ま。ま。う。出。口。庭。門  
 間。毎。の。進。退。方。位。さ。へ。不。定。金。定。め。たり。そ。を。う。ち。忘。れ。ま。う。為。不。宿。ま。ま。う。引。き。居。画  
 図。あり。即。ち。懐。と。搔。撈。り。て。取。出。ま。ま。う。小。六。を。腰。る。燧。裏。と。解。用。死。く

火と鑽つ程小目四郎も亦腰と探りて三尺帯の間より抜取り出せ蠟燭の準備を  
 小六も答へて火と移させれば目四郎は左より小篋と折採て蠟燭と挿し地上  
 植て却平坦なる石の上の件の画圖と推用けば小六も跪居て彼此とる目四郎  
 指さし示さる。是尙せ浴館の大小総て十餘間あり。奥よりなる東の間の藤白  
 主の臥房は這次の間近習の侍者西三名宿直となり西なる五間の奥方  
 と給事の婢子們并兩舎三尾の歌妓們が紅粉金あり又便室ありとけ小奥  
 方の氣賀の館へ歸館せられて歌妓們も皆身の暇と賜たれば這頭人影も  
 依べし又小玄關の南に在り北の子舎の若黨あり。尚ほ隣りの雜色子舎  
 中間子舎の下あり浴室即乾の方と坪の篋二所あり。其の庭あり庭門あり  
 這里より奥の出口あり。徳れは庭より入り出て出居の這方と断截らば袋は東西を  
 探るが如く主従一個も漏れず。その期及び小可の奥と面亭の間の庭は這個

杉戸と目柴のしと走るの逃ゆる奴們あり。藪も曲てん。身の内奥より入りて寃  
 家と藪の捕あか。徳做まを幾人ありとも逃まをひひととる取る如く耳は示  
 せ小六も相々點頭て俺も如右こそ思ふれ臨機応変時宜不依るのゆゑあれど  
 進退と今より茲小定めたる這画圖の現價千金足不優る幫助ある誘も  
 べしと身と起せば目四郎の速く画圖と思置て懐へ夾る程の山風吹れて滅る  
 蠟燭とちら垂れて俱れたのうろつけ入る山の谷河の留堰く水の滔々と音凄下  
 谷夏樹立其貌姑峯楊樵の花零果て鳥夜と照さん雲もある。芒種の節の比る  
 と降りと降らざみ私雨の雲存んとて又日雲る。峰欽林鹿欽社鶴梅輪ゆけと  
 伊豆の海や澳の小嶋は見えども有藪系深生生の恩仰は高は親も  
 返る剣大刀身と捨てて武夫の名も揚羽の蝶鳥と多以伊豆の藤原の曾我は  
 霊堂の這山本ありと。ゆげ肝向ふ心の禱る健雄の先不立。闇夜其



依以傳第一車卷一

有像第十五









瞪り膝推向ういと買一罵る程小事で来ぬへええを安同やと推鎮めく。  
 若們の酔るる俺のよとつねか主の與ふとええと敵の當るる武吉役。  
 その一日の故もて耕させ飽ませと味を飯新舊ありとも忠義の新兵古  
 兵を多捷も敗るも大将の軍配不依るのめれ當時躬方の功名の皆土同  
 ぐ致を所誇ら俺て七誇りもせめ天飛ぶ鷹鳥の地とまえる狗も朋輩するの成  
 益の口論不敬あめとや向後と佐と慎みねといれて大家青松の盛の形を  
 改め額と死て仰うけりなりぬ御免のうの酒兵荒れ七憶は口馬齒其者  
 中の棒も掛らる。菓と酒菜は今一度過さるあ有がさるん重々過急照文の  
 酔て件の如く有り。を礼と允させあひてよと異口同音の陪話一安同呵とち  
 笑ひて然る亦復醒さん若們の回背は酒量と竭て契なが過一軍の剛膽  
 と左も右もれ捨措がな那著演奴がうんか。這里あゆるの皆腹心と逆の機

密に知らぬもるけれ今ゆ隠去るもあぬ。の波竟奴の殺多り頭顱を接  
 去て金さへ取せて遣せしあふふあけん若們の夢るともるる一快と回へ大家さし  
 現那のひひた人さう才ありけ。諾ひ稟せ一大事と做らるる。做らるるも  
 けまき便りの空をぬ仇知られて殺れ候去るる心変りて逃亡は候知るべ  
 ら探知もくも人も海世の疎は這山里の久橋居で便る。この安同領てその  
 笑ものれ鎌倉へ帰心今ゆ矢のごと既準備とある。明日の必氣賀へ還りて  
 後日の歸府の赴ん靴と隔て癪と搔く。馮心甲斐竟盜見吊られてのといんも  
 俺鎌倉へ還るる著演奴と結果る。計畧の我もあらん。今宵の浴室の名残  
 且契むべと引受て酌とて。竭さ不意と一人別取され然るも杖む杜校門酒の  
 人當千也敵と擇まら乱五雜五盆泥の如く酔ぬも多。席の中堪えええ  
 同の卒就寝んと。鈴灯さう身と起せ。見浮踏やと三女介がと被扶けく

そが依り臥房に冊を入まふけり。現常言の事ある。豪家の門は瘦たは拘るく。農夫の廩の肥る鶏あり。安閑の使る奴隷も慾ある才閑さげ酒を竊る。隠して。閑の穴引く如く。飲食いざとものまければ。主より先の酔臥して呼べども。起る鎖も忘れぬ。門の衝く反吐の声。心裡悲しく。夕やも還る。階より。臺所水火既済の數盡す。今宵敷る命との知るを算と。乱れた。轉寐言と。轉浴牙と。軒睡の声のま高かり。介程の館小六を浴館の庭門を。塙の添以身を潜めく。目四郎が出て来ぬ。今夕と等程の結陰る天霽有て。二十四日の月鮮明。頭れ出ると。瞻仰れ。丑三時候あり。けり。等と久しかり。独連の焦燥る程。内よるまで庭門を開いて。潜びおるのあり。是則目四郎小六を。雲時透相て。首尾の。什麼と。同程目四郎声を。密まて。さむ等不承て。けり。那里の酒宴の最中。ゆく。時を。けり。出ても。東を。馳て。奥を。潜入る。現に。済し。い。甲夜。ゆ。知。せ。直。せ。如。

婦女輩の氣賀の邸。皆か。され。一。個。も。と。奥。の。主。後。十。名。あり。今。宵。八。餘。波。の。酒。醺。へ。と。雑。色。奴。隷。も。至。る。ま。酔。ぬ。の。の。ひ。る。九。年。之。前。這。浴。家。あり。腸。屋。殿。主。後。と。敷。捕。た。り。功。名。話。説。の。角。口。ある。もの。藤。白。の。亦。野。上。の。大。人。の。と。恁。々。と。の。ひ。出。で。い。と。憎。さ。げ。ふ。小。可。の。噂。せ。れ。て。生。憎。と。噫。ん。と。せ。一。鼻。と。撮。て。出。さ。と。と。せ。一。折。の。涙。を。不。れ。て。困。た。り。恁。而。只。今。夜。終。り。退。て。主。後。俱。小。酔。臥。る。睡。端。を。い。上。下。二。十。餘。名。ある。も。要。緊。の。折。あり。あ。の。の。七。八。名。小。過。ぐ。る。徐。入。ら。せ。め。い。と。辞。せ。ら。う。く。其。に。報。る。と。う。ち。听。く。小。六。を。齒。と。切。り。て。原。来。這。浴。館。と。是。先。考。主。後。の。敷。れ。あり。故。迹。あり。歎。處。も。易。む。今。宵。の。祥。月。忌。辰。と。怨。と。復。た。武。門。の。眞。加。折。あり。追。薦。これ。不。優。の。る。一。宛。家。の。動。靜。人。數。ま。で。恁。詳。不。少。知。る。目。四。郎。和。主。の。賜。る。非。除。幾。人。看。望。も。と。一。合。を。疑。て。石。の。立。つ。筈。も。ある。の。を。漏。え。ぬ。快。々。憑。心。案。内。を。せ。よ。と。惴。然。を。目。四。郎。推。

鎮めり。醉臥たりとも寛家の言入敷徐に來ませと耳はたつ心は屬て先よ其  
樹の下周に庭の松も昔と偲べ友あるを。それば是は懐舊の堪ぬ小六を數  
柄の刀の鞘釘紙潤し。そや琇と甘けて一步と千歩とを杖とけは。

第十二回

安同首と温泉舎小喪ふ  
庶吉涙と死節場小濺ぐ

却説客店目四郎の小六が潛入する折先庭門の戸を引よせて戸尻の拮榫櫃と  
下しけのち逃去りありあらん折快は用ぬ用心あるを小六が猜して既して縁  
頬近く杖をとり目四郎の遠く袂と掖は指さして這坐席より一房隔る  
奥の奥の臥房入豫謀合せし。小可の奥と面亭の方ふを赴くべけれ好ま  
ぬと耳くと小六も竹々點頭て俱に縁頬よりうち登るふ兩戸の一枚外へ  
あり。軀く其頭より杖入る。幾程も安同の臥簞の頭は近づる。さればその

次の間近翌日の侍者西三名皆醉臥て枕もせ毛足を伸し。用をたの字の  
似るもあり。一個の一個の腹と枕小丁の字は似るもあり。小六を這門は自もかけ  
を隔亮の透透間より且安同と覗ふ山里をねの蟻のあなや。青紗方亦出の敷帳と  
無れ終。圓行燈の朧月光幽る蒲團の上未だの小横と打被死る。安同の三女介  
と枕と並て臥す。小六もこれをえて。此も擬議せ。隔亮と簞刺里と用て  
入る程小三女介の折をも。熟睡とせざらん。忽地小頭と拾げて小六を見  
は。驚き連り小玉と揺覚して賊あり賊ありと喚り。三声とも立させ。こ  
小六も枕方踏鳴り。藤白安同快起よ。九十年已前今日汝の襲ふこ  
あひ。脇屋陸奥少将義隆朝臣の奉為。怨と雪る俺は足源助則之。豈強  
人の類あるんや。快々勝負と決せよと名告掛喚り。声小安同駭覺て。あ  
沿ると枕方る刀と合せて身と起。是りと引抜く程。もあをせ小六も谷成

落せる獅子の虎彪と此の駈る如く礮と敷る刃の光の安同も亦眼を閃  
 了と錯せど脱れぬ命運鬼の聊狂ひかども勇士の刃尖行たを安同が存脱を  
 心を走んと破落しと餘る刃を身邊ある三女介さへ肩尖より乳の下まで毛  
 斫れさる。主後等深疾の堪む。這那一度の苦と叫びて俱に挫とを外れける。  
 浩処は次の間も酔臥さける近習の侍者底倉記我八堂榎麻太郎十布野  
 左腕太這們的三名が物响の方僅夢覺て仇入りぬと必あを駭にさる中刃を  
 多あく合せて入らんと小六は是とさるて寛家の首級と捕る惶る物々一登  
 と血刀と必真額を振抗て跳菟らる稠る敵と敷る麻非け趕退けて走らぬ  
 次の間也先は立たる麻太郎と韓竹割の斫付も尖に修煉の大刀風を找難言  
 左腕太記我八逃るとも脱さると思ひしければ前後より引夾を敷んとさると小六を  
 ゆるりと引受て左腕太當る奮戦突戦要時とわれ左腕太の刃礮と打落しと

怯むと透さ下と破る巻の冴る左腕太の頭顱の逆は滾滾と血煙立ててしける  
 既中て記我八も肩間の痛疾を履ひて連る声もあつて人々起し癖者あり  
 癖者入らぬと喚立る声も敷く宮尉も田藏踏る足野井管車と醒ぬ宿  
 酒の頭顱の重く兵兵く片膝推立て目と磨る袖本再九郎と俱に名湯の面  
 九郎も刀と鎧よと罵りて薄闇室と撈るもあつて或の準備の角弓とるあ合  
 とも皆弦断れて亦引れ去空干箭の敷は漏れぬささぐと。雑色奴隸と喚  
 覚しつゝ身勢と憑む破軍の劍戟左も手燭と兼さあつて威彼此より起る  
 束の競ふ程もあれ小六も既記我八をゆきび挫と破付しと敵を擇  
 ち取若武者の鋭刃尖に向ふ前も。那牛孺の美濃路の防戦又時致は十  
 般斫も是中優トと名をよ大袈裟梨子割腰車引んとあつて後跡  
 より推さる真額と敷られて侍も俱嘯は憂観もあつた。本意するも鮮血を

紅蓮の花獨楽と柚本さくの置土産宮尉手附て  
 錢筒平の足野井の足と破れて一足飛ぶ十方億土死出の旅羽草の共  
 祀られぬ鬼の面九も臭く。名湯の因果廻り来て死は温泉の焦熱地獄を  
 面前は見る乱世の人の心は悍れ。這折雑色奴隷まで各宿酒の醒さく。  
 匹夫の勇と好むりのみ。つうと力と料や。勅ゆるは値する。皆共侶の敷きかけ。  
 任れは王僕十五六名一個の小六砍立られて。血のあがり。為体と看官に訝りて。  
 相応にかま。とあふあふ。去れも戦ひの勝負人の言少より。及ふ臨みて死を  
 極め敵と怕れざるの。單身し。十数人の當るといへども。不利あり。這藤白が  
 黨の躬方の多勢と憑むの。主の與ふ命と惜まて。先を駈んと。思ふの。加るは  
 酩酊ま。臥て。幾程もあ。所りける。醉眼を甲も。敵の言少と認む。て。同士  
 敷きま。あ。り。か。を。く。痛。ま。と。肩。の。言。ら。然。ら。小。六。が。勇。敢。武。藝。の。千。万

人の傳れる。考義死。たも。と。鏡。氣。日。屬。十。倍。ある。大。刀。風。向。の。誰。  
 一人も免る。命運時。神明仏陀の冥助。と。ま。く。本。意。遂。々。死。難。言。り  
 去。と。這。折。茲。不。敷。と。盡。く。敷。果。せ。り。宜。ま。と。ま。間。話。休。煩。小。六。を。豫。以。ひ。  
 隨。居。の。仇。を。敷。捕。て。姑。且。息。を。吻。さ。る。ま。月。の。末。終。敵。り。や。あ。ると。四。下。小  
 眼。と。配。ま。い。も。寂。寥。と。く。音。も。せ。れ。ば。反。る。大。刀。と。柱。當。て。推。直。一。血。を。拭。く。  
 鞆。を。収。め。く。安。同。の。臥。房。へ。ゆ。び。赴。死。て。相。れ。龍。陽。の。少。年。の。初。大。刀。の。深。癩。小。息  
 絶。て。血。は。冷。れ。け。俯。さ。る。安。同。の。ま。死。ま。ど。剛。才。亦。小。六。が。杖。束。ぬ。足。响。の。耳。あ。や  
 入。り。け。や。う。登。り。頭。を。拾。け。起。ん。と。ま。れ。と。腰。立。を。噫。朽。惜。や。と。蠢。動。く。を。小  
 六。を。走。り。走。り。襪。り。項。を。抗。引。よ。せ。く。席。薦。不。鼻。を。搦。着。る。々。怒。ま。る。声。を  
 助。り。立。く。や。れ。安。同。の。知。る。や。汝。の。素。より。脇。脇。殿。は。結。び。怨。の。あ。り。と。も。い。え。を  
 且。職。分。の。あ。ら。げ。は。不。意。に。起。り。て。敷。ま。る。り。是。足。利。家。の。與。る。と。采。利。を



料る小人の忠義めき、所行きどよも必らぬ鎌倉の管領小原衣賞せしを發  
 迹より民の膏腴と絞して飽ませ、驕奢と極め賢を媚きて野上の翁を害せ  
 んと計較なる老奸積悪天の憎は逼り、応報愆念を今助則がふかけて、極悪  
 殿の冤魂と尉めするをうへ民の毒毒と舂拂ひて世の為亦人の與心と快く  
 なまのえ然右少將の記念多。這短刀の刑戮の多と下さん覚期とせよと  
 必の隨小罵責て見光りと引抜く菊一文字の短刀右少少合直其吐嗟と胸極  
 く安同を探返し仰反らして胸前愚煞と刺徹と。軀て首級とを捕らける。  
 徳而小六も血の溜り刃とをさす拭ひ收めく。彼此とええらる。安同の枕方鼻紙  
 其雲のあらけ。是究竟と引よせて。それ紙あり香盆あり。下壇の料紙硯あり  
 けと皆合卸して。冤家の首級とうち載せ。西に推向け身と退かて合掌  
 あり念をさす。先は乃尊守三火并五家臣松田鳥山江田堀口高柳們も火あ

ら。今助則が首祭れる。冤家藤白安同の首級と御食く。在り世の死心と承存あり  
 然か。報恩謝徳頓生甚菩提陀佛みご仏と唱れば然も勇み、健雄の心れ  
 猿腸とぬるる。悲しもの亦あもさる。却あふあふえ。親管とせよとせよ。  
 墨磨流し筆と添て身と起り。傍る雲母扇の重紙戸小性心永十年。今月今  
 日於此浴館被撃比之。奉為腸屋右少將誅戮藤白隼人正安同主僕十數  
 人者源助則と黒雲黒中の大書言きて。憶ぎ荒然とらち笑しが。忽地心もさす。は  
 めも目四郎のいふまゝ。今までも影さふとせぬいと訝。愁小面亭のさ立別  
 れより敵不當り。瘡を肩ふる飲敷もれいせ。心のとる。甚むと。蜀君の  
 く。圓行燈の頭る。白金の燭と兼抗植る。蠟燭は火と移して。彼此  
 面亭のさむの敷もれい。尸骸二四個横らる。鮮血の躦と流る。目四郎の  
 里もさす。次の間の板席と。庵溜の通路のりあ。其首小措れ。鐵行

燈の頭も人ありて。嘯く声のあてけれ小六の胸安く。先後小六走りて其首到りて。是則目四郎を既痛疾と肩たるに。登時小六と声とわけて。目四郎を肩たるに。安同と敵と。十五名敷捕られ。奥の仇のわたり。彼を肩たるに。快々立ねと尉。目四郎頭もち掉て。喃小官人。敵と。宿意も錯。居る仇を成。果玉ひとをそれ。今生念。送まも。存命。死身。救ふ何処まで。立退く。小可の向の程。逆謀合せ。如く。這里より。奥へ。も。雑色。奴隷。敷。留て。俱小志と果。果の。中。大。刀。筋。の。捷。方。も。あ。り。け。れ。憶。む。膝。頭。破。れ。膝。の。痛。を。肩。た。る。辛。苦。て。件。の。敵。を。皆。川。拂。て。死。身。の。奥。後。安。く。ま。れ。も。這。個。深。疾。を。い。け。ん。腹。を。研。ん。と。ひ。刀。を。合。も。直。せ。り。か。ま。り。死。身。の。安。否。を。知。る。今。下。に。對。面。を。本。意。遂。の。趣。と。听。を。死。ん。る。早。か。り。と。思。い。入。り。て。報。を。

小六と。目四郎。今。心。弱。れ。と。思。ひ。て。數。十。所。を。疾。く。肩。た。る。も。死。所。を。深。く。傷。ら。れ。本。復。せ。り。の。世。を。ま。り。況。や。和。主。の。疾。病。の。非。除。定。業。限。り。あ。り。と。も。俺。仇。を。敷。果。せ。り。と。和。主。の。助。助。に。依。り。死。身。も。活。る。と。も。共。侶。と。を。思。ひ。の。相。垂。と。獨。立。退。ん。や。要。ま。り。と。思。ひ。ん。も。快。々。肩。の。被。り。ぬ。り。と。思。ひ。て。躬。々。と。目。四。郎。聽。む。振。拂。ひ。て。御。好。意。の。有。か。ら。ん。と。思。ひ。て。最。慚。愧。く。な。り。と。思。ひ。て。身。の。相。足。枷。も。ろ。路。次。の。障。り。あ。り。と。思。ひ。て。跡。も。追。隊。蒐。て。後。度。の。難。受。不。及。ぶ。危。し。然。し。只。這。身。獨。り。と。思。ひ。て。死。身。も。俱。危。か。ら。ん。と。思。ひ。て。情。物。を。案。察。す。左。も。右。も。小。可。の。存。命。を。思。ひ。て。情。由。と。思。ひ。て。小。六。も。眉。も。頻。々。死。の。易。く。考。へ。生。の。難。く。思。ひ。て。疾。の。氣。を。屈。て。救。何。等。の。情。由。の。あ。る。と。思。ひ。て。頭。を。入。り。て。尉。め。り。て。目。頭。肩。の。沙。汰。の。と。思。ひ。て。思。ひ。て。初。小。可。這。浴。館。偷。盜。の。與。小。可。入。り。小。藤。白。玉。捕。ら。れ。放。遣。せ。れ。刺。金。十。兩。を。惠。れ。り。是。邦。主。比。

慈悲ありて野上の大人を害まされ與りわれど這身取てその因縁とまじりて  
 徳て介後野上の大人の徳澤義侠小濁と祛て清就たる俺身は幸ひ藤白王  
 不幸なれども善悪邪正の差あれど他が約背にせ世の罪とせ所べし然れども  
 刃の旅宿仕て大人小稟する恩徳小答今人のをさひる的外もあ身の入水  
 事皆画餅なるものか大人も危く俺身も亦措所なきなりて山の中海の中就  
 死命を捨て那人を殺して俱死せよと多折る料らども死身小環り會りより夜  
 撃の案内小立たるは本来の面目を論及びとねがう今より後の命を惜て  
 あん身と共に立退くは真の俠者あはるか。とどつふをさひるは伏藤白王は奸悪  
 世の人通て知ぬもろり。民の與り虎狼なれども俺身の素より死心もあはれ敷かれん  
 頭顱と接されて養られけりける那金を受たる隨小返しもせせむ方纒這折死せむ  
 あん心快らんや。覚期極くいとつ刀を合抗て腹へ馬驚と突立ると小六を吐

嗟と推乃林めく。狼狽たる状や。听ねその十両の金所以死。急に思慮淺かり。  
 俺身は路費の貯囊あり。然るも不思。安同の尸骸の頭十金を送して債の果  
 させん。喘りしもの疎。幽さよと憾め。目四郎息を吻て否。然るもさ。小可  
 刃小伏せと。藤白王の敵も。われ。追隊の沙汰。及ぶ。死身の後安る  
 べ。這と念ひ。那と思。目今死。身。一事。両用。放ちて。往生。さ。あ。ひ。と。物。母。無  
 憤りて。馮。微。光。景。小。六。と。只。願。感。嘆。と。通。じ。た。雙。忠。義。俠。迷。半。世。の  
 博。徒。り。と。悟。れ。か。一。日。の。義。士。と。り。け。る。自。殺。の。覚。期。の。健。氣。は。俺。親。を。徳  
 高。大。人。の。教。化。小。馮。心。の。飲。朝。道。と。聽。れ。が。女。小。死。を。も。可。り。と。ひ。け。ん。孔  
 子の。教。も。外。る。を。嗚。呼。天。の。平。命。を。平。今。の。禁。示。由。も。平。尚。ひ。迷。を。と。あ。ん  
 苦。痛。と。忍。び。て。告。よ。か。と。心。と。屬。し。勸。ま。目。四。郎。を。な。く。頭。を。拍。て。否。親。も。く  
 妻子。も。死。身。の。是。野。中。の。孤。木。の。浮。世。の。秋。小。先。の。何。処。へ。と。う。送。を。死。言。の

葉絶てまければも。御成敗の大人の御庇りよ。初て是親の恩。三十年の非を知りて。天怕死不孝の罪の。方々を不就て。赤心係る一筋あり。恥れを。懺悔の。為の。りやせん。笑うとも。いふ。死欲との。小六。を。肩差添て。その何事。知らねども。快々告よ。甚だ麻を。と。屢問れて。目四郎。の。心。と。激。眼。と。睜。り。て。益。る。た。と。ま。つ。同。せ。ぬ。の。京。走。小。可。故。郷。在。り。時。年。十六。の。春。を。た。親。の。家。使。れ。て。音。問。と。喚。做。を。炊。婢。に。幾。遍。と。ま。宵。跋。程。の。腹。踏。胎。の。り。け。り。雨。妻。時。の。隠。し。も。け。れ。ども。帯。考。比。小。の。り。一。ふ。を。保。人。の。女。房。の。訪。来。一。折。り。を。出。て。支。護。憤。り。る。た。依。を。親。の。慈。悲。心。を。物。數。の。せ。を。金。の。て。面。と。張。れ。け。れ。風。波。立。を。音。問。の。身。の。暇。と。取。ら。せ。り。信。而。音。問。の。は。り。も。出。て。も。折。物。蔭。の。俺。身。と。招。り。て。其。中。を。妾。が。親。の。上。野。る。新。田。の。莊。の。百。姓。へ。今。も。後。の。身。の。往。方。親。里。へ。送。遣。ら。り。て。身。を。つ。小。と。る。べ。け。れ。然。る。に。送。小。音。問。絶。り。あり。妾。の。左。ま。れ。右。も。わ。れ。産。も。出。さ。ぬ。あ。ん。の。胤。

る。親子の證據ありぬ。一種。とも。賜。ね。か。と。ら。れ。て。有。理。と。思。ふ。の。は。猛。可。な。を。遣。る。東。西。を。這。身。の。幼。雅。か。り。時。腰。護。竹。付。裏。小。附。ら。れ。る。迷。子。牌。と。黄。銅。の。形。圓。金。の。似。く。る。一。ふ。武。藏。州。荏。原。郡。假。名。川。客。店。肝。八。之。見。子。目。四。郎。と。鏤。着。ら。れ。と。後。々。ま。で。喪。ひ。も。せ。ぬ。あ。り。け。れ。年。十五。六。の。比。より。夾。小。判。や。て。懐。小。一。日。も。放。さ。せ。ず。け。り。と。思。ひ。出。し。藻。塩。草。一。分。の。金。と。り。共。小。臈。て。音。問。取。せ。け。り。是。を。一。期。の。生。別。れ。ぬ。錢。二。百。送。し。る。心。地。せ。の。後。々。ま。で。思。ひ。出。し。年。と。経。て。今。般。小。の。親。の。恩。子。の。往。方。さ。へ。偲。れ。て。果。敢。る。死。を。今。や。思。心。知。と。知。り。は。り。明。て。あ。ん。身。は。漏。心。な。る。音。問。が。産。け。ん。俺。胤。の。男。兒。の。女。子。教。知。ね。ど。も。恙。も。な。く。て。成。長。ら。び。を。十四。五。の。頃。へ。倘。武。者。修。行。の。折。を。と。り。介。る。東。西。持。る。母。教。子。小。不。圖。遇。あ。り。と。あ。ら。ば。汝。が。父。の。任。と。告。も。知。さ。せ。ぬ。か。と。思。ひ。小。六。を。點。頭。て。その。父。の。俺。と。く。ろ。ぬ。を。早。る。義。士。小。後。を。送。憾。く。思。ひ。落。胤。あ。る。意。外。の。教。び。





乞ひける。庖丁人。おあわん。ごうん。人。鷹鬼。右。湯。つ。と。吸。做。た。る。その。度。毎。日。吸。入。れて。飯。を。食。ふ。

又。美。菜。ま。又。這。那。と。う。養。ふ。は。れ。最。慚。愧。く。多。し。う。是。を。饑。と。凌。死。る。人。の。情。の。憑。

此。の。回。も。隨。不。任。と。俺。身。の。う。へ。と。報。へ。六。那。人。の。之。憐。愍。て。母。の。精。灵。不。備。よ。と。て。餅。を。

取。り。食。錢。も。養。ふ。稀。る。檀。那。と。も。あ。ら。け。る。亦。下。哺。ま。夕。飯。と。も。あ。ら。折。那。鬼。右。馬。

獨。を。その。身。子。舎。を。招。を。て。以。子。の。死。亦。慕。は。し。と。淺。き。口。説。を。頑。童。ま。せ。ん

と。調。戲。れ。と。腹。を。平。け。の。罵。辱。ゆ。突。倒。ら。脱。を。母。を。又。擁。抱。て。放。さ。し。の。聲。を。立。

つ。角。ひ。程。不。其。頭。不。あ。り。け。軒。磔。兒。の。一。具。麻。非。粉。の。碎。け。是。を。駭。く。鬼。右。馬。の。怨。地。

声。を。昔。立。て。這。と。丐。奴。が。大。胆。多。人。を。折。を。現。す。俺。子。全。景。潛。入。り。の。東。西。を。竊。入。為。

る。べ。い。の。と。趕。れ。て。逃。る。と。相。公。の。死。確。と。摧。は。し。一。か。ま。り。及。罪。戻。之。且。細。め。て。後。お。も。相。公。

稟。上。づ。れ。と。分。説。さ。ぬ。伎。倆。の。早。繩。圖。を。巻。子。細。め。て。拭。き。て。猿。鑢。不。銜。せ。し。這。

個。板。厨。の。内。へ。抱。抗。の。戸。を。閉。た。り。折。り。他。が。朋。輩。多。難。色。の。甲。乙。が。来。り。見。つ。く。も。る。ん。

あ。れ。と。偷。見。と。ら。ふ。よ。誰。と。憐。む。の。の。多。料。ら。ゆ。け。枉。難。身。の。因。徒。と。り。よ。う。世。

とも。今。も。恨。と。と。甲。斐。斐。の。縹。緋。物。も。ら。れ。ど。音。不。泣。く。の。今。ゆ。い。鬼。右。馬。の。慈。悲。の。

真。の。慈。悲。を。て。只。淫。欲。の。與。り。と。知。て。餌。不。寄。り。圖。を。不。拭。は。れ。る。を。朽。と。れ。は。

れ。が。今。宵。更。蘭。て。慾。と。遂。ん。と。欲。を。飲。然。然。と。主。君。不。夢。え。わ。げ。て。罪。を。ま。る。お。あ。ん。ご。ん。

透。と。ゆ。い。立。出。て。脱。去。と。言。争。思。と。あ。羊。来。信。を。親。世。立。目。の。御。名。を。唱。て。在。け。程。不。

その。甲。夜。の。間。の。御。酒。宴。あり。と。庖。厨。拵。を。勤。げ。て。人。の。往。返。の。跡。絶。を。け。れ。毫。も。も。介。る。

便。を。ゆ。も。小。夜。深。し。と。猛。可。の。騷。動。敷。大。刀。音。の。烈。く。夢。え。て。修。羅。の。街。衢。を。渡。る。

ね。が。俺。身。も。俱。不。殺。さ。ぬ。飲。と。必。胸。の。を。真。に。て。活。る。心。地。せ。ら。う。小。事。果。で。却。金。瘡。人。と。

思。へ。這。人。さ。る。の。懺。悔。話。説。の。洩。せ。ら。う。亡。母。親。の。以。送。され。と。も。以。合。ら。哀。し。

此。の。憶。き。は。声。を。た。ゆ。り。這。人。さ。る。の。假。名。川。を。目。四。郎。刀。袂。で。す。は。ま。俺。身。の。実。は。父。を。べ。

證。据。の。方。纒。の。れ。て。那。腰。着。の。懸。子。牌。は。是。を。実。父。の。記念。を。環。會。早。日。の。あり。も。せ。





